

No.115

2021(令和3)年
11月1日
発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
永原智行



聞いた、聞こえた
ナンマンダブは
助けさせよの

親ごころ



夏法座、布教実演をみんなでお聴聞(由良町蓮専寺)

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話
『御文章』のお話 その18
永原智行

此方十劫邪義章

そもそもちかごろは、この方念仏者のなかにおいて、不思議の名言をつかひて、これこそ信心をえたるすがたよといひて、しかもわれは当流の信心をよく知り顔の体に心中にこころえおきたり。そのことばはいはく、「十劫正覺のはじめより、われらが往生を定めたまへる弥陀の御恩をわすれぬが信心ぞ」といへり。これおほきなるあやまりなり。そも弥陀如来の正覺をなりたまへるいはれをしりたりといふとも、われらが往生すべき他力の信心といふいはれをしらずは、いたづらなり。

しかれば向後においては、まづ当流の眞実信心といふことをよくよく存知すべきなり。その信心といふは、『大經』には三信と説き、『觀經』には三心といひ、『阿彌陀經』には一心とあらはせり。三經ともにその名かはりたりといへども、そのころはただ他力の一心をあらはせるころなり。

されば信心といへるそのすがたはいかやうなることぞといへば、まづもろもろの雜行をさしおきて、一向に弥陀如来をたのみたてまつりて、自余の一切の諸神・諸仏等にもこころをかけず、一心にもつばら弥陀に帰命せば如来は光明をもつてその身を撰取して捨てたまふべからず、これすなはちわれらが一念の信心決定したるすがたなり。

かくのごとくこころえてのちは、弥陀如来の他力の信心をわれらにあたへたまへる御恩を報したてまつる念仏なりとこころうべし。これをもつて信心決定したる念仏の行者とは申すべきものなり。
あなかしこ、あなかしこ。「文明第五、九月下旬のころこれを書くと云々。」
(2面に続く)

◎語句
この方…越前地方の本願寺門徒。
不思議の名言…あやしげな言葉や文句。
体…ようす。ありさま。

十劫正覚の…時宗等の影響を受けた十劫秘事(安心)の異義を指し、十劫のむかし阿彌陀仏が正覚成就し、衆生の往生を定められたと知ることが信であるというが、自力雑行をすてて他力をたのむ廃立の信心が欠けていると批判されている。

十劫…劫はインドの時間的単位のうち最も長いもので十劫とは非常に長い時間をいう。
そも…それにしても。

向後…今より後。今後。

三信…『大経』第十八願文に、衆生往生の因として誓った至心・信樂・欲生を三信という。

三心…『観経』に説く浄土往生に必要な三種の心。至誠心・深心・回向発願心。

り
か
ひ

一心…『小経』本願を信じて疑わず一心の心ないこと。

雑行…雑は邪雑、雑多の意味で、本来は比土入聖の行である諸善万行を往生行として転用したものであるから「のようにいう。化土の業因であるとされている。正行に対する。」

帰命…南無(ナーム)を漢訳した言葉。心から信じていうやまう意。浄土真宗では本願に帰せよとの阿彌陀如来の勅命の意とし、またその勅命に帰順する(信に順う)意とする。「おほせにしたがふ」と訳されている。また帰命には礼拝の意味もある。

撰取…仏が衆生をおさめとり、往生せしめること。

念仏…仏を念ずること。真如を念ずる実相の念仏、仏のすがたを心におもひ観る観想の念仏、仏像を観ずる観像の念仏、仏の名号をとる称名念仏などがあり

聖道門では実相念仏を最勝とし、称名念仏を最劣とみる。しかし浄土門では、称名は、如来の本願に往生行として運びとられた本願の行であって最勝の行であるとみなされている。

◎現代語訳・大意

近頃この地方の念仏者の中に、根拠のない怪しげな文句で、「れぞが信心を得た姿だなどいい、しかも自分は浄土真宗の信心をよく心得ていると思っているものがあります。そのものは、「十劫の昔に阿彌陀如来となられたときに、如来が私たちの往生をも定め下さった」恩を忘れないのが信心である」というのです。

これは大きな誤りです。阿彌陀如来が悟りを開いて仏となられたことを知ったとしても、私たちが往生することのできる他力の信心のいわれを知らなければ何にもなりません。これより後は、まず浄土真宗の信心のいわれをしつかりと心得るべきです。その信心とは、『大経』には、「至心・信樂・欲生」と説かれ、『観経』には、「至誠心・深心・回向発願心」と説かれ、『小経』には「一心」と説かれています。すべて他力の信心をあらわしたものです。その信心とは、自力のはからいを捨て、ひたすら阿彌陀如来を信じ、その他の神や仏に心をかけず、一心なく阿彌陀如来に帰命すれば、み仏は光明の中におさめとってお捨てにならないのです。これが信心決定したことです。このように心得た後の念仏は、み仏が信心を与えて下さった「恩に報いる念仏である」と思うべきです。このような人を信心が決定した念仏者といふのです。

ヒダカくん 真宗のことを少しかじった人が陥りやすいことを言っているんだよ。
ひかりちゃん 少しかじると間違ったことを言っているの？
ヒダカ 特にこの此方十劫邪義なんかは、遠い昔に阿彌陀さまが私たちをお救いくたさるることが完成して今の私たちは何もなくなっていくと思う人がいる。それはだめだということなんだ。

ひかり 昔に将来の私たちのことまで含めてお救いくたさるというのが完成していたら、今更私たちが何をやるの？しなくていいのは道理だわ。

ヒダカ そこが違ったんだ。

仏さまが、私たちをいつもお救いくたさっているのに、私たちはいつも仏さまから逃れようとしている。これでは仏さまに申し訳が立たないじゃないのか。

たとえば、人はそれぞれの思いでバラバラな向きを向いている。人に気持ちを伝えたいときには向かいあうものだ。でも、自分が言いたいことがすめば、向かい合わないんだよ。

でもね、仏さまに向かっているとき、たとえば、手を合わせているときなんかは、いろいろな立場の人はあるけれども、仏さまを拝んだり、お勤めをしているときは、専ら仏さまの方を向いているでしょう。これが大切なんだ。

全く違う立場の人や、男や女がいて、仏さまだけを向いている。そんな中で自分を知り、命終えたときお浄土に往くことを知るんだ。

これを仏さまによって育てられると言った。自分で育つと思っている以上に人々によって育てられ、仏さまによって仏になれる身とさせたいんだね。

遠い昔に仏さまは、この私を仏にさせてくれることを完成されたが、いつも仏さまから逃れようとしている私は、仏に向かうことによって真宗の安心を育てられているんだ。そのことを親鸞聖人や蓮如さんが私に教えてくださったんだ。

だから、私たちはそのお礼として報恩講をお勤めするんだよ。

法話 阿弥陀様のお救い

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、阿弥陀様のお働きを船に例えて大変喜ばれました。本日は「阿弥陀様の船のお救い」についてお話しさせていただきます。

この船というのはお例えです。では、私は何に例えられているのかと言うと、小さい石ころだそうなんです。

ところで、石ころを海に投げ入れますとどうなると思いますか？なんのあらがう術もなく沈んでいきます。この石ころは自分の力で浮き上がることはできません。どうか？何かの力で上げてもらおうしかならないです。この石ころが私だっていうんです。しかもただ海の上に乗るだけではダメです。ほっとくと沈んでいきますから、もう沈まないようにしなければいけません。そんな沈む性質を持つ私を海の上まで引き上げて、もう沈まないように乗せてくださるのが阿弥陀様の船です。

私、ここで気が付いたことがあるのですが、沈む石ころの力より、船の浮力の方が大きくなければ、成り立ちません。私の沈む力より、阿弥陀様のおはたらきの方が大きいのです。

沈んでいる私たちの命をすべてお浄土に必ず渡すとお誓いくださったのが阿弥陀様というお方です。

私いまだに覚えている苦い経験というものがありません。私がまだ保育園児くらいの時に近所に銭湯が出来たんです。私たち家族も行ったのですが、私は男三兄弟の末っ子なんです。まだ小さかったもんですから父親は大変です。父が言うには、洗う順番を間違えたそうです。私から洗って、先にお風呂に送り出しました。

皆さん大体予想つくと思います。私溺れてしまったんです。この時の記憶というのはいまだに覚えています。目は見えます。水面がキラキラ光っていました。しかし、どうにも体が動きません。頭では何かおこっているのかわかりません。その時、父がお風呂の中に入ってきて、私を抱き上げてくれました。父の腕の中でわんわん泣いていた時に「あ、私は溺れていたんだ」ということに気づきました。

この時の父の姿から、阿弥陀様の温もりを感じました。

高僧和讃の中に、「弥陀弘誓の船のみぞのせてかならずわたしける」とございます。この乗せてという言葉には、私が自分で乗るのではございません。阿弥陀様が私を乗せてくださいます。

沈んでいる私のところまで、その身を海に沈めてまで来てくださいます。私一人のために「お前をそこから救いたい」と命をかけて来てくださる阿弥陀様でございます。そして私を大切に抱えて船の上まで引き上げてくださいます。

私が南無阿弥陀仏と御念仏した時というのは、お浄土へと向かう阿弥陀様の船の上でした。

この船に一度乗せていただいたならば、もう沈む心配はないです。阿弥陀様の船の上に乗せていただく安心と共に、お浄土に参らせていただきます。

(蓮専寺 衆徒 岩崎 信)



お逮夜参りがきつかけで キン(リン)磨き

由良町光専寺の北山住職は今年3月で小学校教諭を早期退職されたことをきつかけに、それまで坊守さんにお任せしていたお逮夜参りに行かれるようになったそうです。



ある日、お逮夜参りに行かれた際、座布団に合わない大きさのキンがあり、家人に詳細をうかがうと最近キンを新調されたという。古いキンを見せていただいたところ捨てたのがもったいないほど立派なものだったので、住職はそのまま持ち帰り仏具専用の研磨剤で磨いていたところ、新品にも勝る光沢が復活したという。

あまりの美しさに感動し、自坊のお内仏のキンも磨くようになり、知らないうちにその光沢に取りつかれるようになった。

以後、逮夜参りに伺うご家庭のキンが気になりだし、今までに35軒ほど家人の了解を得て持ち帰り、磨きはじめてさうです。

北山住職は、

「キンは趣味の域で楽しく磨いています、ご門徒さんに喜んでいただければいい限りです。退職したことでご門徒さんと向き合ったりする時間も増え、お寺に親しみを感じていただきたいと思ってお墓参りの方にも本堂に上がってもらえるような案内板を設置したりしました。以前よりご門徒さんとの会話も弾むようになり、距離が縮まったように感じますよ。」

と話されています。



向拝階段脇にも案内板が



「浄土真宗のみ教え」についてのご親教はこちらをスマートフォンで読み取ってご覧いただけます



浄土真宗のみ教え
南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま教う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま教う」が 弥陀のよび声
ありがとうございます といただいて

この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます

【応募方法】

ハガキ、日高組ホームページにてご応募してください。

〇ハガキで応募

法悦クイズ

- 裏
- ① 法悦クイズの答え ※必須
 - ② 住所 ※必須
 - ③ 氏名(ふりがな) ※必須
 - ④ 年齢
 - ⑤ 電話番号
 - ⑥ 所属寺(〇〇寺) ※必須
 - ⑦ 「ひかり」に対するご意見
ご感想等

表

〒649-1113
和歌山県日高郡
由良町阿戸244番地
教専寺内 日高組事務所 行

63円
切手

114号の正解は
「② 阿弥陀仏の浄土」でした。
お寺の本堂の内陣は、あの世や理想郷ではなく、
真実の世界である仏さまの浄土を表したものです。

Q.. 「正信偈」を日常勤行として
用いられたのは誰でしょうか？
次の①〜③の中から一つ選んで番号を書いてください。

- ① 親鸞聖人
- ② 覚如上人
- ③ 蓮如上人

〇ホームページから応募

日高組ホームページのメニュー内にあります応募フォームより、
必要事項をご記入の上送信ください。
日高組ホームページへのアクセス方法
下記のいずれかの方法で、日高組ホームページにアクセスできます。

〇URLを直接入力してアクセス

下記のURLを直接入力してアクセスしてください。
<http://hidakaso.jimdo.com>

〇バーコード(QRコード)からアクセス

お使いのスマートフォン等にQRコード読み取り機能で
右のQRコードを読み取るだけでURLが表示されます。
アドレス入力しなくても手軽にアクセスできます。



正解者の中から、次の方に粗品を
進呈いたします。

【応募締切】

2022年1月31日(必着)

発表は次号です

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

- | | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 由良町 | 田中ヒロシ様 | 由良町 | 中口小夜美様 |
| 由良町 | 西脇公一様 | 由良町 | 村上良子様 |
| 由良町 | 磯田由美様 | 由良町 | 塩田廣一様 |
| 由良町 | 磯寄美佐様 | 由良町 | 松下光男様 |
| 由良町 | 中崎エミコ様 | 日高町 | 小林民子様 |

御同朋 隔てる壁は 差別心

シリーズ

過疎問題を考える

妙願寺 楠原晃紹

亡き人をご縁としてお寺に足を

向けていただける工夫を！

過疎対応支援員として教区内のたくさんの方の寺院を訪問させていただいておられますが、最近過疎地、都市部に共通して住職方から「墓じまい」の相談件数が増加しているとの話題になることが多いです。

京阪神や関東などに就職などで離郷されたご門徒さんが、ふるさとのお墓参りが不便で居住地の近郊に新たに墓地を求めて改葬したり、寺院で建碑された合祀墓や大谷本廟に納骨される事例が多いようです。組内でも最近合祀墓を新たに建碑されたり、建碑を検討されている寺院もあるようです。

今年、自坊の境内地にある経蔵を納骨堂に改修し、お墓の建碑以外の選択肢をとるの思いで運用を開始しました。納骨堂を選んでくださるご門徒さんもおられ、未永く活用いただければと思います。

抽寺のようにもともとお堂があれば改修費用も安価で済みますが、一から建設するとなると多額の費用がかかりますね。ある寺院では本堂の余間の畳に納骨堂が設置されています。また、余間に直接骨壺を安置されている寺院も見受けました。そこで提案させていただいたのが後門（ごうもん）側から須弥壇に扉をつけて須弥壇の中に安置するという方法です。つまり須弥壇納骨という提案です。

納骨された参拝者は、内陣の真正面にある阿弥陀如来（御本尊）の下にお骨が安置されているので、参拝時は必ず本堂に上がらなくてはなりません。お寺の境内地などにお墓があっても本堂のご本尊にまず参拝される方はめったに見かけませんよね。ご本尊にもお墓にも参拝していただきたいのですが、須弥壇納骨であればそのことを解決してくれると思います。ご縁づくりを考えると、亡き人をご縁として仏縁に出遭えるきっかけとしてまずは本堂や境内地に足を向けていただく取り組みが最重要であると感じています。

専如ご門主は、「法統継承に際しての消息」に「本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化につれてかわっていかねばならないでしょう。」とお示しく下さいました。

現代という時代、お寺に背を向けがちな方々にご法義をどう伝えていくのか、どうすればお寺に立ち寄っていただけるのか、阿弥陀如来の尊像を前にして素通りされないような工夫がまだまだ足りないのでしょうか？



由良町衣奈西教寺の合葬墓
正面は六字名号、裏面は「西教寺門信徒納骨塔」と刻印されている
門徒からの墓じまいの要望を受けて本堂裏山の基地に最近新設された

門徒心得

「正信偈」

「正信偈」は、親鸞聖人の著書『教行信証』に記されている偈文で、正しくは「正信念仏偈」と言います。この偈文を独立させて、念仏と和讃を加えて、日常のお勤めとされたのが蓮如上人です。

それまでの仏前での勤行といえは、善導大師が著された『往生礼讃偈』でした。これは、『六時礼讃』とも言われるように1日に6回お勤めするように作られており、現に6回お勤めするのが浄土教のお寺ではしきたりとなっていたようです。

そのお勤めを簡素化し、僧侶だけでなく毎日の勤行にご門徒も一緒にお勤めできるように、そしてより宗祖親鸞聖人の教えを味わえるようにとの主旨で、「正信偈・和讃」をもちいられました。これまでの六回のお勤めを意識されたのでしょうか、「正信偈」の後の「和讃」は六首、詠うことになっております。

蓮如上人はこの勤行用「正信偈・和讃」を印刷して、ご門徒にも広く行きわたるようにされ、浄土真宗の普及に努められました。

(善宗寺 鈴木章吾)



蓮専寺 お盆法話会

新型コロナウイルスの影響が、色んな所に影を落とします。

息子の信ですが伝道院(布教使養成・百日間の研修)がりモートでの研修。8月末には大阪のお寺にて研修生二人で2日間の布教実演の予定でしたが中止。伝道院の方から「自坊にて法座を開き布教実演をすること」との課題を頂き、お盆の最終日、15日の夕方5時より「お盆法話会」を開催いたしました。

急なことでしたが二十数名の参拝を頂き、皆で『阿弥陀経』のお勤めをした後、15分の法話を二席。皆さんからお聴聞の感想を聞きました。

ありがたいなあ、わかりやすく上手でしたよ、院主さんよりいい布教使さんになるわ…と褒めてもらって育てて預かります。

私は「これじゃダメだ…もっと勉強して法話のアンテナを張り巡らせ…」と意見しておきました。

「オヤジはうるさい…」と言っていました。親子でご法話話ができるのもありがたいことです。

今年6月よりリモートでの研修、朝9時より夕方5時までの講義・法話実演、夜は課題に個別指導、本人いわく「こんなに勉強したのは初めてや…」と辛そうですが、お念仏のお取次ぎは責任あることです。リモートには限界があると思います。一緒に勉強する仲間ができていく事、何よりご門徒様の中での実演が困難・法座の空気が読めないこと。今回の法話実演はいい経験になったでしょう。

今は布教使資格の段階ですが、この世界は一生の勉強・研鑽です。それは私からの伝言として、先ずは一步。(1面写真参照)

(岩崎法明)

謎解きゲームLINEアプリ

ご家族で挑戦してみよう!!

浄土真宗本願寺派子ども・若者ご縁づくり推進室が企画したLINEアプリができました。

「古より受け継がれし宝」という謎解きゲームで少し難しいかもしれませんがヒントを読んでもらえばClearはできそうですよ。ぜひ家族と一緒にチャレンジしてみましょう!

参加方法

この謎解きゲームは、LINEアプリを使用します。右記QRコードにアクセスし、表示される専用アカウントを友達登録をしてください。LINEアプリ上で解答を送信することでゲームが進んでいきます。



@702pbsev

LINEで友達登録しよう!

遊び方

- ①メモ用紙と筆記用具を準備しよう!
- ②LINEのメッセージをよく読んで、【】内の言葉を入力しよう!
- ③表示された謎を解こう!
- ④どうしても分からない時は謎と一緒に送られてくる3ケタの数字を入力しよう!
- ⑤答えが分かったら、その言葉を入力して送信しよう! 正解なら次へ進めるよ!
- ⑥「Clear」の画面が出たらクリアだ!

注意事項

- ①この謎解きゲームは、LINEアプリを使用します。映像や画像の配信を含むため、Wi-fi下での使用をおすすめします。(通信料は各自でご負担ください)
- ②この謎解きゲームでは、音が出ます。音なし(消音状態)でも遊べますが、音アリの場合には周囲の環境にご配慮ください。
- ③制限時間はありません。無理なく、解き進めてください。(想定所要時間:30分~60分程度)
- ④年齢制限・人数制限もありません。わからないときは協力して解いてみてください。

企画:浄土真宗本願寺派子ども・若者ご縁づくり推進室
謎制作:Toy×ポーズ

謎解きゲーム 古より受け継がれし宝

お寺からの帰り道
あなたは1枚の紙を見つける。
そこに記されていたのは
「古より受け継がれし宝はここに……」
という不可解な言葉と、不思議な絵。
少し見ただけでは何もわからないが
それでも、どこか惹かれるあなた。
そして、その不思議な絵に隠された謎に
気がついたとき、ふと頭をよぎるのは
「謎を解いたらどうなるのか?」
という純粋な疑問。あなたは
「古より受け継がれし宝」を目指し
謎を解き進めていくのであった……

LINEのアプリでQRコードを読み込もう→
友達登録で、いつでもどこでも遊べる謎解きゲーム!

秋のお彼岸をお迎えして

「彼岸会」とは、春分と秋分の日を中日として、前後の3日ずつ計7日の間に行われる法会で、この行事は日本だけに見られるものです。

浄土真宗では、蓮如上人までの時代は彼岸会は行われていなかったようですが上人59歳の1473年に彼岸会を修したことが『御文章』に書かれており、それ以後今日にいたるまで本願寺では絶えることなく、年中行事として7日間にわたり彼岸会の法要が勤められております。

もともと「彼岸」とは季節を表す言葉ではなく、「お浄土」を表す仏教用語であります。生命を始めとして全てに限りがあり、苦悩に満ちたこの現実の世界「此岸」から、阿弥陀如来のはかりない無量のいのちと智慧につらぬかれた永遠の安楽国土である「彼岸」の浄土を渴仰し、いのち終わればそこに生まれることを願うのが彼岸会の本来の意味であります。

私たちはお彼岸を迎え、お浄土に想いをはせ、阿弥陀如来に救いとられていった多くの方々をしのび、お念仏をあじわいたいものであります。



秋季彼岸会

日高町志賀(柏)

善宗寺



読者の声

※毎号、配布下さり誠に有難く拝読させて頂いております。114号の法話「正信偈」の一節が印象的でした。不肖、私、老残も信、篤き日々でありたいと祈っております。

※ひかりは、すごく勉強になります。知りたいことがたくさんあるのでこれからも読ませて頂かいます。ありがとうございます。

※いつでも有難うございます。有難く読ませて頂いています。

※毎号興味深く拝見させて頂いて頂いております。

※色々なことを勉強させて頂き、有難うございました。

※コロナ禍で行事が中止となることが多い中で、私たちの寺では、お盆に向けて本堂の掃除を実施しました。檀家さんみんなにお声掛けをし、20名くらいの方が集まり、1時間程度で終わることが出来ました。その時間は本当にお寺に足を運んでもらえる貴重な時間だったと思います。

※公式チャンネル拝読しました。内容はともかく、タイトルネーミング「坊主の話を開け！」に違和感を覚えます。インパクトがある方がいいとお考えかも知れませんが、どうも高圧的な印象がぬぐえませんが、もつと悩める人に寄り添うような温もりのあるソフトなネーミングだと思えます。

※毎回ひかりを拝読させて頂いてもらって、有難いです。毎朝仏さまの前で、手を合わせてコロナ収束を祈る日々です。

※コロナ禍で先の見えない不安な毎日ですが、前を向いて笑顔になれる日を願って念仏申し上げたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

※毎号充実した情報をありがとうございます。コロナ禍が続いていますがお寺の法要にお参りできることは、何よりもうれしいことです。次の住職も頑張っており、大事に檀家皆で盛り上げていきたいと思っております。とにかく早くコロナが終息しますように。南無阿弥陀仏

日高組通信

☆行事報告

◎第10期連続研修会（れんけん）

第10回連続研修会が8月7日に日高別院において、第11回が10月2日に日高町柏善宗寺において開催されました。第11回は話し合い法座最終日となり、まとめとしての話し合いが行われ、この研修会に参加してお寺の法座などに積極的に参るようになった、お仏壇やお寺に関することが気になるようになったなどの感想をいただきました。

◎ひかり編集委員会（日高組広報部）

10月4日、善宗寺において第115号の編集委員会が開催されました。日高組での行事が滞る中での編集委員会であり、各寺の行事や寺院を訪問して取材するなど紙面を充実すべく話し合いを行いました。なお、当面は新型コロナウイルスにより組三役、広報部のみでの編集会議となっております。

☆行事計画

状況によっては急な中止もありえます。

◎真宗法座

第10期連続研修会（れんけん）修了式
12月12日（日）日高別院にて日高組真宗法座並びに第10期れんけん修了式を開催します。詳細については11月中旬ごろ寺院宛て、日高組ホームページでお知らせいたします。

◎日高組組内会

12月18日（土）午後2時から由良町阿戸教専寺で第2回組内会を開催します。住職、僧侶、寺族の皆様のご出席をよろしくおねがいします。

お知らせ

訃報

由良町衣奈西教寺坊守の藤田 京さまが令和2年10月19日に往生されました。日高町小浦田行寺坊守の片桐静子さまが令和3年8月22日に往生されました。生前のご苦勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

ひかり編集委員会（広報部）では読者の皆さんからの投稿を募集しています。

法悦クイズには是非チャレンジしましょう。同時にご意見ご感想を添えていただければ幸いです。